

「プな行動支援（PBS）」

PBSの効果を高める褒め方

- ① 具体的に褒める（何を褒めたのか明確化）→何で良かったのか、わかりやすい。
- ② すぐに褒める。（即時に、タイミングよく！）
- ③ 最終的なゴールには到達していなくても、今できているところに注目して褒める。
- ④ 褒める側（教師）の思いを伝える。
- ⑤ モデルとなる他の子の行動を褒める→どうすればよいのかを伝えることになる。
- ⑥ 子ども同士、教師同士できているところや良いところを見つけて、認め合う。
- ⑦ どの子にも、褒め・認められる機会を！

学校！



がんばったことが認められる環境

一方で「叱る（注意する）ことも必要です！」

叱ったら、叱った後が大切です。
その子どもをよく観察しておいて、行動が修正されていたり、修正しようという努力が見られたりしたら、すかさず褒めます。本人の努力を褒めましょう。

する方法がPBSです！

風通しのよい職場
高め合う同僚

集団づくりにも個別的支援にも力を発揮するPBS

PBSを柱にした学級経営を行うことで、まず落ち着いて過ごせる子どもが増え、学級全体が安定します。その結果、教師に余裕が生まれ、支援や配慮が必要な子どもへの関わりを充実させることができます。

また、PBSは問題が起きる前から積極的に対応することになるので、結果として問題行動を予防することにつながります。

も教師も

学級内で「プラスのサイクル」を作り、そのサイクルを循環させることがポイントです！

子ども
どうすればいいかわかる。
望ましい行動をする。

教師
望ましい行動を見つけ、すかさず褒める。認める。

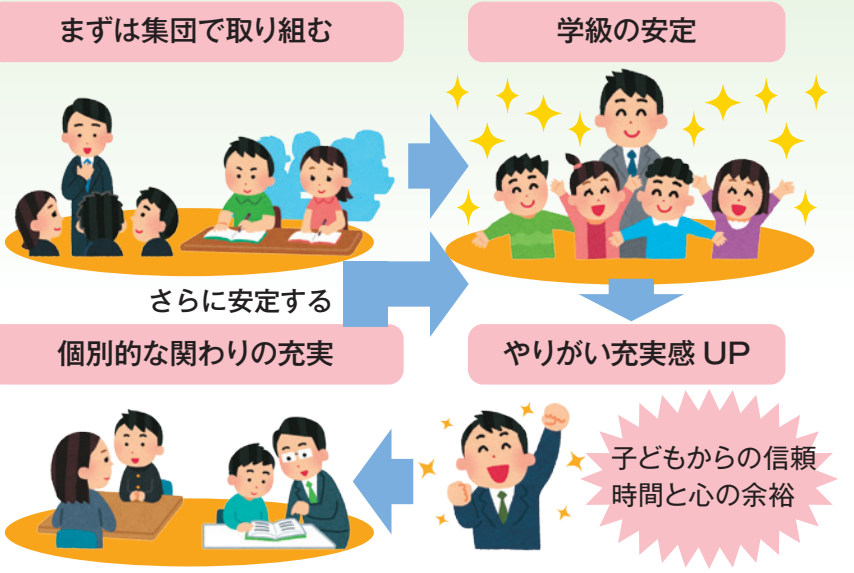
のサイクル

子ども
自己肯定感アップ
達成感アップ
前向きで意欲的になる。
やがては子どもに委ねる。

子どもを取組に巻き込み、活動を自分たちで行っていく中で「主体性」や最後までやりきる「自信」を育みます！

Step Up!

さらに、こんなことを目指せます！



東みよし町の取組 ～4小学校の挑戦～

●足代小学校（GAP がんばる あしろっこ プロジェクト）



「発表するときには、大きな声で最後まで言う」、「元気な声で相手より先にあいさつしよう」など、足代小児童の実態やニーズに対応した取組を展開しました。PBSのロゴマーク（GAP）を考案し、児童への称賛に効果的に使っています。地域の人も参加していただき、元気な声で朝のあいさつができる児童が今まで以上に増えてきています。

●昼間小学校（ひるまっこ チャレンジ プロジェクト）



「笑顔とメリハリ」をテーマに「チャイムが鳴り終わるまでに着席しよう」などを目標に取り組みました。次の授業の学習準備をしたり、静かに着席して教科書を読んだりするなど、各学級で児童の実態に応じたアレンジや工夫が見られました。

●三庄小学校（笑顔ひろがれ！三庄っ子 プロジェクト）



「友だちと話をするときは、あったか言葉を使おう」、「自分から元気のよいあいさつをしよう」などを目標に取り組みました。児童玄関の横に設置されたあったか言葉の樹はとて大きく育っています。学校では以前にも増してあたたかい雰囲気が出されています。

●加茂小学校（KSP かもっこ スマイル プロジェクト）



本年度は、過去2年間に実践した目標を改善しながら全校で取り組みました。高学年が手本となって、低・中学年を引っ張る形でプロジェクトを進めました。また、計算や漢字の読みなどの基礎的な学習内容の練習や、授業における「学び合い」など、学習支援につながる内容にもチャレンジしています。

特別支援まなびの広場へアクセス!
<http://manabinohiroba.tokushima-ec.ed.jp/>

あなたの学校・学級での実践に役立つ情報が満載！
教材や研修資料などを公開しています。

リーフレットについてのお問い合わせ 徳島県立総合教育センター特別支援・相談課

〒779-0108 徳島県野郡野野町犬伏学東谷1-7 ☎088-672-5200 E-mail tokubetsushien@mt.tokushima-ec.ed.jp
リーフレットは、徳島県教育委員会「発達障がい教育・自立促進アドバイザーチーム」の監修のもと作成しました。
リーフレットは、文部科学省委託事業「発達障害に関する教職員等の理解啓発・専門性向上事業」を活用して作成しました。

わかった！ できた！

自信とやる気を育てる
「ポジティブな行動支援」

～子どもも教師も幸せな学校をめざして～



ズバツとわかる「ポジティブ」

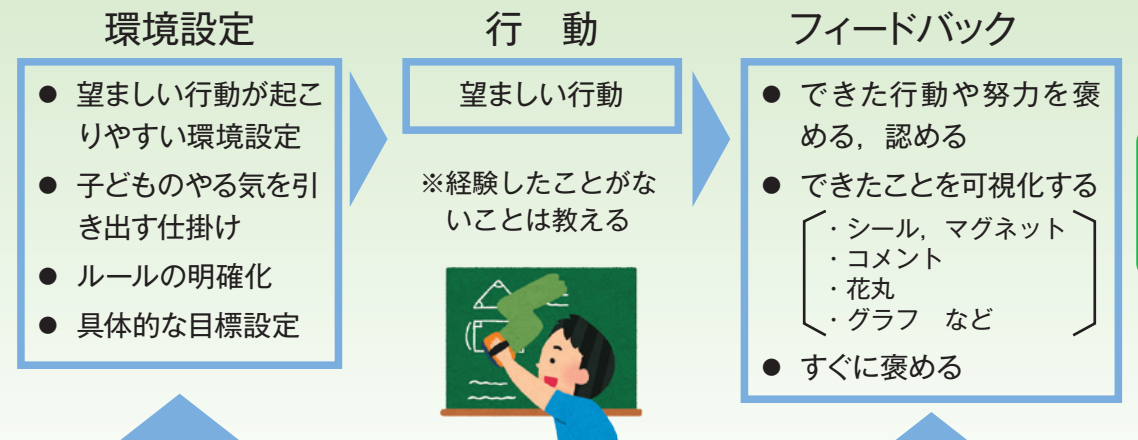
子どもが主役の学校づくりを!!

ポジティブな行動支援（Positive Behavior Support:PBS）は、子どもの社会性と主体性を育むことを目的として、教師の「こんな子どもに育ってほしい」、子どもたちの「こんな自分になりたい」という願いを形にするものです。子どもを管理するための方法論でも、問題行動を減らすための手段でもありません。



望ましい行動を増やすための仕掛け作り

ポジティブな行動支援の「ポイント」は、望ましい行動を増やし、子どもの成功と達成を実現するための仕掛け作りです。



子どもたちにとって
「頑張ろう」、「やってみよう」、
「できるかも」と思える仕掛けを作る！

子どもたちにとって
「うれしい!」「楽しい!」「できた!」「頑張った!」
と思えるように褒め方の工夫をする!

◆望ましい行動の記録によって、子どものがんばりや成果を見えるようにし、取組の振り返りや子どもを褒めるツールに使う。

PBSで子どもポジティブに!

(スタート)
教師 → 子ども
望ましい行動を教える。

プラス

教師
成功体験でやる気アップ
支援の仕方がわかり、さらに工夫を重ねる。

PBSは教師をつなぎ、協働力を高めます

■つながる教師

ポジティブな行動支援が浸透すると...

- ・ルールやマナーが明示化される。
- ・教師の指導基準がそろいやすい。
- ・教師間の連携・協働が図りやすい。



仕掛け作りでは、それぞれの教師の得意や強みなどの個性を活かせる。

学級経営に役立つ学校の方向性を共有しやすくなる。

足並みがそろい 協働力が高まる チーム学校を具現化する

その後、校内ではPBSが少しずつ広がっていきましました。職員室でも自分の学級だけでなく、他の学級の良いところに注目した言葉が飛び交うポジティブな空気がながれています。学校で何か起きてても、職員で協力して問題解決しようという雰囲気も高まっています。

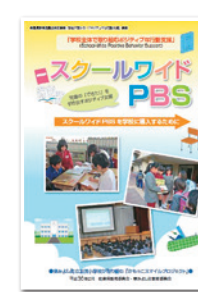
学校全体で取り組むPBSは、一人ひとりの子どもの成長を教師みんなで支えていく試みです。教師もつながり、助け合いながら、チーム学校として子どもも教師も幸せな学校をめざしていきます。

裏面では、東みよし町で実践された学校全体で取り組むPBSの実践を紹介しています。

■学級から学校へ

校内での興味の高まりを感じたA, B先生は、管理職や他の先生たちに学校全体でPBSを取り組むことを呼びかけました。

※学校全体で取り組むPBSについては、平成29年度のパンフレットを御覧ください。



■他の学級へ

校内では、B先生の学級につづき、A先生の学級でもPBSがうまくいきました。職員室では、A, B学級がうまくいっていることが話題になっています。

他の学級でもPBSに興味を持って、取り組み始めました。



■子どもが主役の学級づくり

PBSによって望ましい行動が起こりやすい仕掛けをつくり、子どもたちが成功と承認を受ける経験を積み重ねることによって、子どもたちは教師(担任)に信頼を寄せ、自信をもって望ましい行動をすることができるようになります。

その結果、子どもたち自身が考え、お互いに助け合いながら成長していく学級・学校(園)を創ることができます。教師が子どもたちへポジティブに関わり、一人ひとりの成長を支えながら子どもが主役の学級経営を行うことで、子どもも教師も幸せな学級を創っていきましょう。



※学級成長物語に掲載している写真は本文の内容をイメージしやすくするため、東みよし町立加茂小学校 平成30年度4年生(内田真生教諭)の協力のもと撮影したものです。

■取組を始めるための準備①

目標:「授業開始前に教科書やノートを机の上に出す」

具体的な計画を立てるためにもう少し詳しく観察してみよう!



記録は児童名簿を使ってチェックしました。

【観察結果と記録】
○月○日(○曜日)3校時 算数
準備できている人(13名/30名)
○月○日(○曜日)
Cさん, Dさん, Eさんは毎時間、学習準備している。知らなかったなあ。
○月○日(○曜日)
休み時間に入る前の子どもたちの会話
「次、何の授業かな?」「算数だよ。黒板見てごらんよ。」
注目で観察すると、計画黒板ってみんな見ているんだ。
★工夫すれば、クラス全員行動が定着しそうだ。

【記録からわかったこと】
・学習の準備をきちんとできている子が数人いたのに、その子たちを特に褒めてはいなかった。
・ほとんどの子どもが、休み時間に入る前に次の授業が何か、確認している。
・事前に工夫すれば、多くの子が無理なく学習準備ができそう。

子どものできているところ、努力を認めていきましょう。

■取組を始めるための準備②

A先生は、学級会で子どもたちに相談しました。
「どうすれば、みんなが忘れず準備をするだろう?」
するとある子どもから「職人の7つ道具」みたいなのを作ったら、思い出し、安心だよ。」との意見が出ました。
「よし!それだ!」
A先生は笑顔でうれしそうに深くうなずきました。

○目で見えてわかる手がかりの作成

授業の始まりのチャイムが鳴るまでに7点セットをつくえの上にしよう



○「褒め方」の計画

[STEP1] 子どものできている行動を称賛。
[STEP2] 良い行動をまねた子を称賛。
[STEP3] 準備ができている子の連絡帳に花丸を書く。
[STEP4] 学級全員ができたならマグネットをはって賞賛。

記録はできる範囲で!

○「行動記録」の計画
・基本的には活動開始前と同じ行動記録を継続する。
・支援の前後で比較して、成果を評価する。

手がかりはシンプルに!
・最初に教えるときに使う。
・忘れていた子がいたら、この手がかりを用いて準備を促す。

■新たな工夫で新しい風を!

A先生は、準備を整えた上で、実際の活動は子どもたちに任せることにしました。

準備タイムです。次の授業は国語です。机の上に7点セットを出しましょう。

準備OK?(声をかけ合う)

すると、ほとんど全ての子どもが安定してできるようになり、今ではすっかり行動が定着しました。



■取組は続く...

学級では、授業準備などの望ましい行動を子どもたちが主体的に行う姿が見られます。A先生はよいところを「褒め・認め・励ます」PBSで、今後も学級経営を進めていこうと思っています。

A先生の最近の関心事は、「授業のスキルアップ」です。子どもたちとともに、自分がやってみたい授業や学級づくりに挑戦できる日々、深い充実感を感じています。



■まずは実態把握!

A先生は、まず3日間、子どもたちの様子を観察し、メモしてみました。

【メモ】○月○日(○曜日)
◎くつばこのくつはほとんどの子がそろえて入れている。
◎授業中、子どもの発表は多い。
◆登校後、教室に入って元気よくあいさつできる子は1~2名だけ。
◆授業をはじめても、大半の子どもは教科書やノートを机の上に出していない。
◆子ども同士のあたたかい言葉かけが少なめ。



授業開始前に、教科書やノートを机の上に出すことから始めてみよう!



授業開始前に、教科書やノートを机の上に出すことから始めてみよう!

B先生に相談するとアドバイスしてくれました。

子どもにも教師にも分かりやすく、取り組みやすいことから始めるといよ。



■取組開始!!

A先生は、子どもたちに伝えました。



よし!みんなでがんばろう!

取組の意味(意義)について子どもたちに伝える事が大切!

取組の意味(メリット)の説明例
「学習準備が整っていると、授業がスムーズにスタートできるよ。」
「すぐに教室移動ができるよ。」
「先に準備しておけば、忘れ物に早めに気づいて、授業が始まる前に先生に相談できるよ。」

■子どもたちの変化(4週間~8週間)

A先生は、以前にも増して子どもを褒めるようになっていました。

さわがずスムーズに移動ができたね。



子どもたちの自主性が高まり、協力しあう姿が増え、A先生は、確かな手応えを感じました。また、焦らず余裕をもって子どもと接することができ、A先生自身も自信を深めました。

あったか行動によく気がついたね。



■記録から見直しを

改めて記録を見直すと、行動が定着しない子どもが特定できるようになりました。また、一時は定着していた子ども、できたりできなかったりする日が増えてきました。

しきり直しの時期かな。新しい工夫をしてみよう。



PBSで学級成長物語

~ポジティブな行動支援でジャンプアップ~

■どうしたらいいんだろう...

A先生は学級経営のことで悩んでいました。

できるはずのことができない...
活動に集中して取り組めていない...



焦り
同じ注意を繰り返している

■PBSとの出会い

A先生は、ミーティングで悩みを打ち明けました。するとB先生から

クラスのことや悩んでいる様子だね? 子どもも教師も笑顔になれる方法があって、うちのクラスでもやってみよう。A先生もやってみるかい?

そんな考え方も方法もあるのか! これで悩みが解決するかも、やってみよう!

B先生の学級では、すでにPBSに取り組み、子どもたちを「褒めるための仕掛け」がたくさんありました。B学級の子どもたちの変化に気がついていたA先生は、PBSの説明を熱心に聞きました。

■取組始め(~2週間)

始めは学習準備が元々できている子を褒めました。



学級全員ができた時には、黒板に賞賛のためのマグネットを貼りました。

◆スタートがうまくいかないときは...

子どもたちの大半がその行動を今までにできなかった場合などは、なかなか浸透しないことがあります。焦らず練習の機会を増やしましょう。

■定着期(2~4週間)

取組は順調に進みはじめ、A先生も手応えを感じています。

記録を毎日取っているのですがなかなか...

記録は無理なく続けられる方法を探そう!

準備ができている子どもが多くなってきてうれしい。

できていることをしっかり褒めて、認めましょう。

このころには、休み時間に子どもたち同士で声を掛け合うようになりました。学級全員が学習準備を事前に行っていたことが3回続いたときには、そのことをお祝いするためにみんなで好きな曲を歌いました。



※学級成長物語に掲載している写真は本文の内容をイメージしやすくするため、東みよし町立加茂小学校 平成30年度4年生(内田真生教諭)の協力のもと撮影したものです。